

産業建設常任委員会

ラウンドアバウトモデル導入事業の  
取り組みの先駆け長野県飯田市へ

日時：平成 25 年 11 月 13 日(水)  
～ 14 日(木)  
場所：長野県飯田市役所議会事務局  
派遣議員：鈴木一夫委員長、薄葉好弘  
副委員長、竹元孝夫委員、  
佐藤幸市委員

大震災の発災から  
2 年半が経過し、町  
内における道路をは  
じめ公共施設等の復  
旧工事も概ね竣工が  
見通せる時期となり、  
災害復興に際し、町  
民の安全と安心はも  
とより、将来の町づ  
くり見据えた視点で  
の新たな整備手法が  
必要とされている。  
特に信号機の無い  
交差点「ラウンドア  
バウト」モデル導入

事業の取り組みをさ  
れている長野県飯田  
市を訪問し、行政視  
察調査を実施した。

「ラウンドアバウ  
ト」とは、交差点の  
中央に円形地帯がも  
うけられた円形交差  
点の一種である。通  
行車両はこの円形地  
帯に沿った環状の道  
路を一方方向に通行し、  
それぞれの道路へ流  
出する。環状道路を  
走行する車両に優先  
権がある事が最大の  
特徴であり、交通の  
流れは信号機や一時  
停止などにより中断  
されない。

ラウンドアバウト  
の特性として、①速  
度抑制効果による  
「安全性」②無新号  
機による「円滑性」  
③無駄な停止時間の

解消と電力不使用に  
よる「環境性」④信  
号機等の設置費等の  
削減による「経済性」  
⑤災害に強い「自立  
性」の五つが挙げら  
れる。

本町においても、  
変形交差点の存在及  
び信号機設置の要望  
に県公安委員会等の  
予算や基準から実現  
できない交差点も多  
くあり、これらの対  
応としては大いに参  
考になる事例で有意  
義な視察研修であつ  
た。



現地視察

視察報告

文教厚生常任委員会

「住みたい」と思われる町づくり  
栃木県壬生町と群馬県みなかみ町

日時：平成 25 年 11 月 26 日(火)  
～ 27 日(水)  
場所：栃木県壬生町及び群馬県  
みなかみ町  
派遣議員：諸根重男委員長、安井敬博  
副委員長、熊田宏委員、青  
山英樹委員、加藤宏樹委員

壬生町では、就学  
前の乳幼児と保護者  
を対象とした子育て  
支援センターは、児  
童発達支援と放課後  
等デイサービスを主  
とした壬生こども発  
達支援センタード  
リームキッズ、0 歳  
～ 18 歳までの児童を  
対象とした児童館が  
設置されるなど充実  
した子ども支援施策  
が手厚く展開されて  
いる。



文教厚生委員会・壬生町

次に本町において  
も、総合型スポーツ  
クラブを設立するた  
めの準備が進められ  
ているが、作ること  
自体が目的でなく、  
行政の支援目的・成  
果を明確にし、総合  
型スポーツクラブが  
継続促進に向けた方  
策として、柔軟で息  
の長い支援・サポー  
ト体制が必要である。

次に「みなかみ町  
芸術のまちづくり実  
行委員会の取り組み  
について」は、平成  
18 年度に N P O 奥利

根芸術文化アカデミー  
が中心となり、東京芸  
術大学と連携し同学校  
卒業生及び修了生によ  
り卒業・修了制作作品  
の寄贈を受けています  
現在では町内外の子ど  
もから大人まで楽しむ  
るワークショップを開  
催しており、地域住民  
の方が積極的に参加し  
ており、芸術を通じた  
地域貢献が進められて  
いた。

研修成果として、町  
民に寄りそいながら、  
地域の活性化・福祉環  
境を整え、住みたいと  
思えるようなまちづく  
りの先進事例として大  
いに参考となるもので  
あった。



文教厚生委員会・みなかみ町